



→ 活用事例

資生堂のプロモーション制作に、 レーザーカッターが活用



2017年2月まで配信されていた
デジタルコンテンツ「Greeting Box」

資生堂ホリデープロモーション

ブランド「Shiseido」が、毎年、ワールドワイドに展開しているクリスマス時期のプロモーション。限定のギフトボックスとショッピングバッグ、店頭ポスターなどが展開。2016年は「Share Beauty」をテーマに、ムービーとデジタルコンテンツも制作。

・レーザー加工機の使用：

アニメーションと店頭ディスプレイ用のペーパーアート制作。アニメーション用 750 枚以上、ディスプレイ用 250 枚以上の紙をレーザーでカット。

・使用機種：Trotec Speedy 300 レーザー加工機 (CO₂、80W)、Atmos DUO Plus 集塵脱臭装置 (200V)

資生堂は2016年ホリデープロモーションとして、「銀座から想い広がる、ペーパーカットアート」を制作。店頭ディスプレイ、ムービー、そしてデジタルコンテンツに展開されました。その繊細なペーパーアートのカットには HappyPrinters 原宿にあるトロテック・レーザーカッターを使用。ペーパーアート誕生の背景、レーザーカッターによる制作方法や工夫ポイントについて、4名のブランド「Shiseido」ホリデーチーム（総勢約25名）にお話を伺いました。



写真左から（敬称略）：株式会社資生堂 アートディレクター 高田 大資
ビービーメディア株式会社 映像プロデューサー 宮崎 真也
ビービーメディア株式会社 アシスタントディレクター 岡 美里
HappyPrinters CCO 杉原 彩子

ペーパーアートの制作に トロテック・レーザーカッターを選んだ理由は？

【高田氏】このイラストレーションがとても繊細で、非常にディテールが細かいので、イラストレーターが描いてくれた世界観を損なわずに美しい紙のカタチにしてくれることが必要でした。その時、レーザーカッターの精度がすごく魅力的だったのです。



HappyPrinters 原宿で使用できる
トロテック・レーザーカッター

【岡氏】レーザーカッターを使える場所を探して、HappyPrinters さんに来たら、こちらのレーザーカッターは「スピードが速く、日本の中ではかなり高精度の方だ」と聞きました。他の施設でも恐らく別メーカーのマシンで線の細さを何回かテストカットしましたが、やはりその中でもこのレーザーカッターのスピードと繊細さはすごく良かったです。

紙の種類は最初から決まっていたのですか？

【宮崎氏】先に使うレーザーカッターを決めてから、紙はテストして選びました。元々はラシャという紙を使っていましたが、監督からより紙の質感が映像で見えるものという要望がありました。レーザー光が通った時に焦げがでないぎりぎりの紙質を探し、10種類くらいを試してハーフエアを使用することになりました。



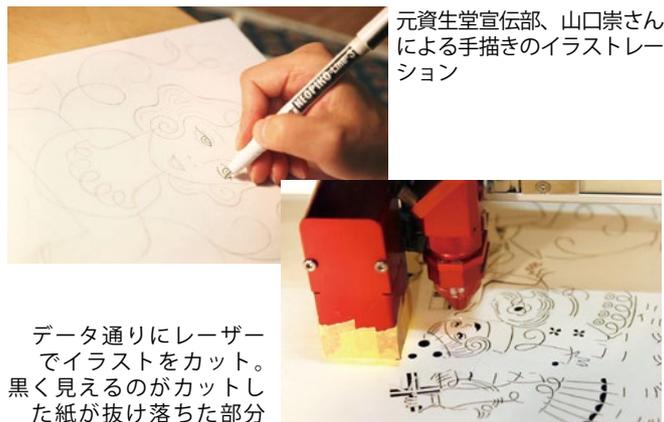
銀座の路面店ザ・ギンザで展示されていた
レーザーカッターによるペーパーアート

ペーパーアートの制作工程を教えてください。

【岡氏】イラストレーターさんの手描きの原画をスキャンして、データに起こします。次に Illustrator で線をパス化します。そこから一番大変だったのが、一枚の紙の中で髪の毛などがバラバラにならないように一つの線でつなげる作業でした。イラストレーターさんの絵の雰囲気や損なわないように線をつなげてデータ化したら、それを HappyPrinters さんに送信して、ひたすらレーザーで切ってもらいました。アニメーションの尺は1分11秒で、1秒間に8枚のペーパーアートを使用していますので、テストも入れて、1,000枚以上の紙を切ってもらったと思います。

【杉原氏】受け取ったデータを Illustrator から CorelDRAW に変換しました*。Illustrator の時点で完璧なデータだったのですが、ものすごいパスの量でしたのでチェックしながら進めていました。例えば、街の窓の一部が抜けないので、なぜだろうと思ってデータをよく見るとその線だけ透過がかかっていたり、パスが重なっていて2回切ってしまうことがありました。でも岡さんがレーザー加工用のデータ作成に慣れてきて、すごく詳しくなっていましたね。

*Adobe Illustrator から、直接レーザー加工用のデータに出力することができます。



制作工程で工夫したことは何ですか？

【高田氏】イラストはえんぴつで描いた後、ペンで清書しています。レーザーカッターがどれくらい細かい線まで対応できるのか、イラストレーターさんと共有して最初テストしました。例えば数値は仮ですが、0.1～0.9mmまで並べた線のパスを用意して、1回レーザーで出してイラストレーターさんに見せ、どの太さでいくのかを相談しました。

【岡氏】テストは企画と平行して行っていました。一枚のイラストに対して線幅を調整し、レーザーでテストカットしていきます。密集度のある箇所は、今までと同じ線幅で切ってしまうと紙が無くなってしまふ程精細なので、そこだけさらに線を細くしてバランスを見ながらテストしていました。密集しているところは、本当に0.0ミリの世界です。

【杉原氏】パラメーターは紙やイラストの種類毎に変えて、焦げないように、きちんと抜けるように、何回も何回もテストしました。さらに綺麗なだけではなく、速くしないと大量のカットが終わらないのでスピードも調整しました。また、焦げがないようにレンズは毎日磨いていました。紙は切っている間に浮いてくるので周りをきちんと止めて、加工中もずっと見ていました。抜けた紙が立ち上がると一時停止して取り除いていました。

レーザー加工で苦労した点はありますか？

【杉原氏】コマ送りの絵なので、今切ったものなのか前のものなのかがパッと見てわからない点です。例えば、唐草がちょっと伸びているだけの違いなのです。だからカットしたイラストは、目で見ていても違いがわからないので、データのリストを作り、レーザー加工時は、JobControl レーザーソフトウェア上のデータ名（ジョブ）で管理していました。

レーザーカッターを使ってよかった点は？

【高田氏】アニメーションをつくるという工程自体、ものすごく時間と手間がかかる仕事なので、スピードは相当助かりました。また、非常に繊細ですよね。不思議と感情が伝わってくる。レーザーカッターは人工的な機械で、最先端な技術ですが、なぜかアナログな温もりがあります。絵がモノになる手触りというか、空間が出てくると入り込みやすいというか、紙芝居のような優しい世界を再現していますね。技術の進歩によって、お客様に温もりある「資生堂らしいギフト表現」ができたので、レーザーカッターとは本当によい出会いでした。

【宮崎氏】ペーパーアートの制作期間は、切り始めてから4週間かかりました。（レーザーの）このスピードでなければ終わらなかったと思います。また唐草は大事な胆の部分なため、細くというよりはある程度サイズを保ちたかったので、レーザーカッターはそういう細かい微調整が利き、使ってよかったです。



高田氏が同時期に紙からレーザーで製作した銀座・資生堂パーラーの「のれん」。紙をレースのように細かくレーザーカットしたのれんの模様（右）

※本文はインタビューの一部です。全文はトロテックのウェブサイト、活用事例「資生堂ホリデープロモーション」をご覧ください。
※本文に記載している機械の機能・効果・仕様等は、取材時の情報です。

→ トロテック・レーザー・ジャパン株式会社

www.troteclaser.com

Email: info@trotec.co.jp

(取材 2017年1月)

www.facebook.com/troteclaserjapan
twitter.com/trotec_japan

